

リチウムバッテリーを使用したラジコンから発火することがあります！

●どんな事故？

室内でラジコンカーを走らせていたとき、バッテリー付近から発火・発煙した。火災には至らなかった。

●想定される主な事故原因

衝突などの衝撃で、バッテリーまたは電気回路部分が損傷し、短絡(ショート)等が起きた可能性が考えられる。



ワンポイントアドバイス

- ラジコンの動きに変化が見られたら、バッテリー等の状態を確認しましょう。
- 火災に至る事故も発生しています。燃えやすいものがないところで走らせましょう。

参考情報

ラジコンで多く使われているリチウムバッテリーには「リチウムポリマーバッテリー」と「リチウムフェライトバッテリー」があります。このうち「リチウムポリマーバッテリー」は、リチウムイオンバッテリーより発火・爆発のリスクは低くなっています。パワーはやや劣りますが、「リチウムフェライトバッテリー」は、さらに発火・爆発のリスクを抑えたバッテリーといわれています。

<委員コラム>

「消費者とともに作る安全なくらしと社会」 (消費者安全調査委員会委員長代理 持丸正明)



消費者安全調査委員会では、実際に起きた消費者事故の原因を追及し、再発を防ぐ対策を立て、それを関係省庁を通じて実施した結果、事故が減ったかを確認しています。対策の多くは製品やサービスを提供する事業者に、新たな危険源を示し、それに対する安全対策の徹底を図るものです。事業者が安全対策を施してくれるように仕掛けていますが、利用者である消費者の皆さんにも協力をお願いしたいことがあります。意識、知識、通報の3つです。

まずは意識です。製品やサービスは常に安全であると思い込まずにいてほしいということです。新しく世の中に出てきた製品やサービスは、消費者がどのような使い方をすることが十分に検証されておらず、思わぬ事故に出逢う可能性が残っています。また、古い製品を長く使うことは良いことですが、製品のどこか一部が寿命に達し、突然に発熱や発火、落下などを起こすことがあります。こういう製品やサービスを利用する際には、「もしかしたら？」という意識を忘れずに持ってほしいということです。

第二は知識です。身の回りの製品やサービスに関する安全情報を調べ、「こういう危険があるんだ」ということを知ることです。消費者安全調査委員会から「一葉」として、消費者の方々に知ってほしい安全知識を発信しています。このほかにも、国民生活センターから「くらしの危険」として、製品評価技術基盤機構からは「製品安全プレスリリース」として安全知識が発信されています。スマホなどから簡単に検索できますので、是非、知っておいてください。

そして、第三が通報です。事故調査も、上記のような安全情報も、実際に社会で発生した事故データに基づいています。皆さんが不幸にして消費者事故に遭ってしまったとき、それを関係行政機関等へ事故情報として通報ください。「これは自分の不注意だ」と考えてしまわず、事故例としてお知らせください。人はいつも注意を払っているわけではありません。そのようなときでも重大な事故にならないように製品やサービスを設計し直すことが安全対策なのです。

われわれは事故を分析し、再発を防ぐべく省庁や事業者と対策を施していきます。利用者である皆さんにも、安全な社会をつくるために協力をお願いします。意識、知識、通報です。安全なくらしと社会は、産業と生活者と行政とで一緒につくっていく＝共創するものだと思っています。